

観光立町として観光客と住民が集う交流サロンを開設

城 端 町 商 工 会

機関名	城端町商工会			
所在地	富山県東砺波郡城端町1046番地			
電話番号	0 7 6 3 - 6 2 - 2 1 6 3			
地域概要	(1)管内人口	9千人	(2)管内商店街数	- 商店街
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数	1商店街	(2)会員数	- 商店
	(3)空店舗率	- %	(4)大型店空き店舗数	- 店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成14年度 活性化対策事業

総事業費

・交流サロン事業（作品展示、趣味教室等）
・情報発信事業（商店街PR、パソコン教室等）
6,841千円

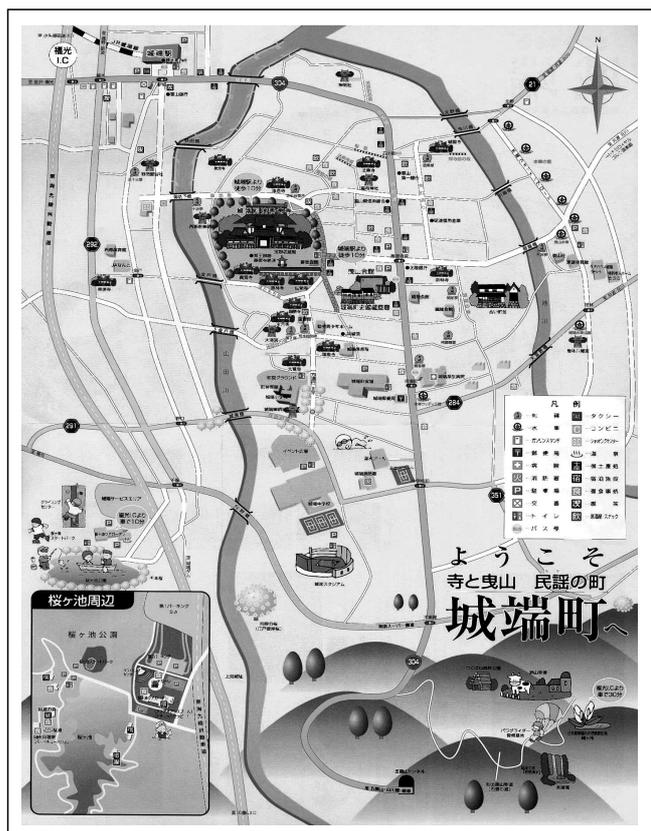
【事業実施内容】

1. 背景

城端町では中心市街地を縦貫する国道304号線の拡幅工事が行われており、その市街地に位置する西町商店会は、再開発事業や近代化事業により、大きく様変わりを見せた。しかし、この工事を機に後継者難、購買力の流出、大型店の進出等による廃業店が出てきており、中心商店街の空洞化が大きな問題となってきた。

一方で「幸せの交流舞台城端」をキーワードに、観光立町として、まちなかに交流人口を増やそうとする施策が講じられている。

このようなことを踏まえ、城端町商工会では、平成14年度に商店街として新たな再生を図り、地元消費者の掘り起こしや地元住民との交流の中で、生活街としての仕掛けづくりをし、来街者をまちなかに呼び込むこととした。



城端町の観光マップ

2. 事業内容

空き店舗の旧全日食城端店を改装し、「城端にぎわい館じゃんこい」を平成14年10月20日にオープンさせ、商店街の個店の情報をお知らせする「ミニウィンドウ」やまちなかギャラリー、インターネット体験コーナーや各種団体の無料掲示板、休憩サロン等の機能をもたせた。

(1) まちなかギャラリーについて

陶芸、書画、版画、生花、木工画、絵画、写真などを手がけている町内の個人・団体等に利用してもらい、作品展示の場を提供する。また、小中学生の作品展示等の企画により商店街に賑わいを持たせる。展示料は無料である。

(2) パソコン教室

地域住民にパソコンを使った教室（延べ8日間）を開催した。併せて商店街でパソコンに詳しい方にも手伝ってもらい、住民との交流を図った。

(3) 小中学生の手織体験

週5日制に伴う地域の受け皿を商店街の中にもつくり、城端の産業の生い立ちである絹文化に触れ、手織体験を通じて地場産業の歴史を学び、生徒達がこのような機会の中で商店街に繰り出すきっかけづくりを目指して実施した。

(4) つごもり大市の開催

古くから城端と五箇山の経済の結びつきが深く、その歴史は340年程をかぞえ、例年2月末日のこの日は大勢の人が商店街に繰り出す。このつごもり大市をもっと内容の濃いものにするため、回顧市（往時の時代を反映した道具店）、感謝市（普段の御愛顧に感謝）、実験市（今までになかった商品の提供）、芸能市（大道芸的なもの）的なものにし、新たな冬の風物詩を創造する。

また、つごもり大市で、「ネームプレートづくり体験」、「ミニわらじづくり体験」、「提灯づくり体験」を実施した。

(5) 商店街のホームページ

今回の事業の中で商店街のホームページを立ち上げ、商店街のさまざまな情報やイベント等をホームページから発信する。又消費者からの掲示板を設け、商店街に対するニーズを書き込んでもらい、今後の商店街活動に活かすこととした。

じゃんこいオープンチラシ



つごもり大市の体験コーナー

【効 果】

(1) 入館者数実績

平成14年10月20日のオープンから平成15年2月末までの間の入館者数は、延べ3,950人であった。そのうち、入館者の多かった催しは、1月2日～3日の正月福引が2日間で2,042人、オープニングセレモニー（初日）117人であった。

(2) 実験的事業の実施について

- ①何事かを一緒に行うことで、連帯感が生まれ育つという効果があった。
- ②空き店舗での事業そのものが、新たに商売を考える機会となる。自分の店ではないが、1つの店の経営、運営について考え検討することが、よい学習効果を発揮した。
- ③空き店舗で多様なイベント等を継続的に行うことによる情報発信効果があった。

(3) 商店街について

- ①補助金がいずれなくなることを前提とすると、次年度から当てにしない経営を目指すべきであるという意見も強くなってきている。空き店舗を商店街の組合が補助金を当てにせず運営してゆくことを考えることで、経営という観点で見ることができるようになりつつある。
- ②自主的に商店街の人材育成のための勉強会を開くことが企画された。
- ③商店街の情報発信を商店独自に行う必要性についての認識が深まった。



商店街の福引き会場として利用 正面（左）、福引き会場（右）

【課題・反省点】

(1) 新たな事業への取組み

①観光商業

中心商店街も観光の舞台と位置付けられる。善徳寺、曳山会館、じょうはな織館（おりやかた）と相まって、商店街が観光客にとっても魅力的な場とするために、観光客が求める地域性のある商品を販売する店舗が期待される。

②生活のサポート

昔からの顧客である周辺地域の高齢者の生活上の利便性を高められるようなサービス事業を行うことも期待されている。注文取りと宅配だけでなく、多様なメニューが必要

である。

③不足業種の導入

商店街に立地している店は限られている。足りないといわれている業種の店を優先的に入れることも検討されるべきである。

(2) 自立した経営の追求

商店街の組合が経営するにしろ、個別店舗が経営するにしろ、自立した収支状況を生み出すことが不可欠である。

【教 訓】

商店街で商業者が行う事業の基本は商売でなければならない。モノを売らないで商売につなげようとしても無理がある。空き店舗対策事業についても、空き店舗を使って実際に商売することでないという意味が薄い。

今回の事業は成果があったものの、組み方に問題があった。商店街組合がチャレンジショップという位置づけで新たな仕組みで商売を行うことを実験する、ということにすれば良かったと思われる。

【関 連 U R L】

城端町商工会 <http://www.shokoren-toyama.or.jp/johana/top.html>